

第5回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和6年8月29日 木曜日 午後1時30分～午後2時50分

場 所：洞爺湖町役場3階 防災研修ホール

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	×	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	×		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	○	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	×
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	×
	泰地 ひとみ	×		田伏 ひとみ	○
	京谷 常美	×		三浦 和則	○
	宍戸 一江	○		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	○
	川上 由起子	○	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	×
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	○			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

○細江教育推進課長

皆様こんにちはは定刻になりましたので始めさせていただきたいと思います。

ただいまの出席者数は15名です。審議会条例第7条3項の規定に基づき、委員の過半数を超えておりますので、ただいまから第5回洞爺湖町教育行政審議会を開催いたします。

次第2、会長挨拶でございます。会長よろしくお願いいたします。

○鈴木会長

改めましてこんにちは。本日は暑い中、お忙しい中、集まっていたことにお礼を申し上げたいと思います。お盆を過ぎてだいぶ暑さは和らいだと思いながら、台風10号の被害が九州の方であって、これも自然環境の流れということで、ここ洞爺湖町も災害のリスクが高いということで、そういうことも含めてこれからの洞爺湖町の子どもたちのためにということで、前回のワークショップで皆さん方からいろいろな想いを、ソフト面とハード面を出していただきましたけども、今回はそれをさらに深掘りする部分と、どこをどう繋げていくのか、より具体的な教育活動というイメージで皆さん方のアイディアを出していただいて、子どもたちの学びの環境づくりっていう視点で、ぜひいろんな角度から、いろんな立場からお話ししていただければありがたいなというふうに思います。

今日も限られた時間ですけども、ワークショップですので、忌憚のない意見やいろいろと情報交換しながら、洞爺湖町の子どものために、皆さん方のお力をいただければと思いますので、今日1日どうぞよろしくお願いいたします。

次第の3になります。本日第5回目の会議について、1と2について事務局よりよろしくお願いいたします。

○山本教育指導参与

ワークショップを担当します山本と申します、どうぞよろしくお願いいたします。前回のワークショップをもとに、今日はその具体的な教育活動についてということで、さらに深掘りしていきたいと考えております。

前回、皆様から出されたものを、ソフト面・ハード面ということでまとめさせてい

いただきました。

ソフト面の部分では、コミュニケーション・関わり、縦のつながりを考えられる、社会性、地域の大人が子どもに声かけをする、注意することは恥ずかしいが善悪を伝える人がほしい、子育てしやすい、人との交流が多い、という部分がありました。

多様性では、違っていても構わないので否定せず受け入れながら自我を育てる力。ウィーアーバディーズというのを調べたら、右下の注釈の1、オランダ発祥のプログラムで特に学校地域社会でいじめ防止や社会的包摂を促進することを目的としているということで、こういう部分も必要なのではないかと。また、尊重できる子、認めあえる子というのが上げられました。三つ目が自立・夢ということで、自分のことが大好き（自己肯定感）と、大きな夢を持ってほしい、好きなこと、得意なことを仕事にしてほしい、自立心、挑戦する、失敗を楽しめるよう育ててほしい。

次にふるさと愛ということで、ふるさとを愛する子ども、洞爺を愛する子になってほしい、町における遺産など、ここには世界遺産が二つありますが、理解を兼ねた学習に力を入れる、卒業後地元へ戻ってくる、洞爺が大好き、親の仕事を理解する、地域を案内・発信できる、自然環境を大切に考えられる。

体力・芸術では、運動や芸術に興味を持つ、芸術に触れて楽しむことができる、体力がある、日本文化を身につける。学力では知識欲というものもありました。オールマイティーではなく何かに秀でている子、小学校4年生以上の算数、お金の使い方も含めてそういった力もやっぱり必要なのではないかと、あと英語力。

優しさ・思いやりですね。協調性、協働性、調整力というようなところも出てきておりました。大きく分けてこの七つに分けてということで目指すソフト面の部分でということで上げられました。

次はハード面の部分でということで、特色ある教育に向けた洞爺湖町の部分でということで、豊かな自然・町・食。景色・湖・海含めて移住者が来たいと思う町、教育を軸にした町づくりというところが上がっております。

地域学習ということで先ほどのふるさと愛っていうところにも関わるのかなと思うんですけども、海外からの人の活用、たくさんの人と関わる機会を増やす、総合的な学習の時間を生かして社会見学などを実施しても良いのではないかと、というところがありました。

あと、地域の人材活用ができればよい、地域を知って自分達で誇りを持って暮らし

ていける力を養う環境、専門的知識を持った教育の配置、学校での学習内容・個別対応。

施設では、スポーツ公園、総合体育館のように色々な人が交流できる場、温水プールがあればいい、少年団などスポーツサークル、気軽に利用できる生涯学習センター、子ども達が放課後に集まれる場所があればいい、あと、ITを活用できる場、給食の施設、安心して遊べる場、子どもからお年寄りまで集まれる場、というところでありました。

学校教育の部分に関しましては、部活動、高齢者と交流できる学校、チャレンジする教育、学校の改築・新築、小中9年間で育てるための施設、維持管理の圧縮がありました。

防災では、防災関連施設としての防災施設、壁のないオープンスペースの教室。

支援では、資格等の取得支援、進学に関わる支援、ということでハード面でも多くのご意見を出していただき本当にありがとうございます。

これをもとに、具体的にどうしたら実現できるのか落とし込んでいきたいというところですが。短時間ですが皆様にアイデア出していただきたいと思いますと考えております。

例えば他の市町の例ですけれども、八雲町の落部地区があるのですが、ここは自分の出身の八雲町でたまたま新聞で見て、この八雲町の落部中学校の取り組みが新聞に出ておりまして、自分が中学校を卒業して高校の時に実は耳釣りのバイトをした場所で、落部中学校がこのホタテの貝柱であったりとか、あとその左下、八雲の北栄さんという方が、そのホタテを加工して歯磨き粉とかを作ってそれを商品化してるっていうのを聞いております。それを中学生が勉強をして、その勉強したことを発信する。ただ発信するのではなくて、修学旅行で東京に行った際にこのパンフレットを中学生が作って、東京の道を歩いている人に紹介をして、できればふるさと納税にクリックしてもらって、そういった部分も含めて中学生の取り組みというのがありました。一例ということで、ここまで来るのにも多分いろんな関わりがあるのかなと思います。学校だけではできない取り組みなので、そういった部分をハード面にこういった部分がある中で、こういった取り組みが多分できるんだろうないうところで一つ紹介させていただきました。

これは虻田高校の昨年度の高校2年生ですが、ホタテとごぼうということで地元の業者と連携をして2日間に渡って各100個ずつ限定で販売をしたという取り組みです。この取り組みは、町のいろんなイベントにおいても高校生が店頭に出て、商品開

発をして、これを作って販売をしているっていうような取り組みでご紹介をさせていただきます。

これは秋田県の五城目町というところがあります。人口が五千～六千人かなと思うんですけど、町に一つの小学校の中に地域の方も入って、小学生と一緒に学習をするということで、左側の五城目朝市わくわく盛り上げ隊という、これは何かというと、五城目町に朝市が開催されていて、その朝市が楽しくなるというか活性化するためにその地域の人を呼んで、小学生と住民の方が一緒に勉強してワークショップをして、今後のまち作りに繋げていくっていう部分で、小学校を活用して地域住民が参加をして勉強するっていうところです。右側、これも五城目小学校の「地域図書室わーくる」っていう場所を使って、地元の林業に関わっている方が来て話をするというところなんです。こういった取り組みも町で行われているということです。

今日は当初4グループでしたが人数の関係上、A,B,Cの3グループに分けさせていただきました。まず、前回と同様に個人で意見を考えて記入ということで、ポストイットにアイディアをどんどんどんどん書いていただいて、その後共有ということで模造紙の方に貼っていくというような作業で、最後は全体で共有したいなというふうに考えております。

例えばなんですけども、具体的な教育活動で姉妹都市箱根町との交流。今年で60周年を迎えるということで夏休みにありました。お互いに行き来をしているということで、そこでICTを使えば離れた場所でもお互いに町の紹介ができるんじゃないかと。実際に働いている人の話を聞くっていうのも先ほど林業の部分でありました。そういった方に学校に来ていただいて、地域の大人の方にも入っていただいてということも場合によってはICTを使ってできるのではないかなというところなんです。こういったところで皆さんのアイディアをどんどんどんどん出していただけたらと思います。普段こう考えている、こういう教育活動ができればいいな、というところを出していただきたいと思います。

先ほどの目指す子ども像ということで、コミュニケーション、多様性、自立・夢、ふるさと愛、体力・芸術、学力、優しさ・思いやり、という項目を作っております。例えばコミュニケーションを育むためにこういった活動をすればいいのではないかな。ただ、それは他の部分にもしかしたら当てはまる部分もあるかもしれないので、それをちょっと線で結んでも構いませんし、完璧なものはいらないと思うので、とにかく皆さんのアイディアを出してもらって、繋ぎ合わせてイメージを膨らませていきたいなというふうに考えております。

一方的な話で申し訳ないんですけども、皆様からご質問はありますか。

《なしの声》

ではよろしくお願ひしたいといたします。

-----グループワーク-----

#### ○山本教育指導参与

それでは、Cから順番にC,D,Aということで発表して、全体で共有を図りたいなというふうに思います。

#### ○C グループ

まず、一応この上にあるのが1番から7番まで共通するものかなということで、まずいろんな取り組みをする中で専門家を導入することが一つですね。それと地元の資源を活用できる機会をこの1から7のうちで作るってことがまず一つ全体としてあります。もう一つは、1番のコミュニケーションと7番の優しさ・思いやりというのは意外と共通する項目があるのかなということで、その中で自治会とか、あと大人しか参加しない、あるいは子どもの活動だったら子どもってなるので、大人も子どもも参加できて、縦の繋がりができるような交流、あるいはイベントができないかっていうことが出てきました。それとちょっと飛ばしまして、自立とかふるさと愛とかですね。その場合は、例えばインターンシップを経験して地域の企業さんに協力してもらっていろんなところに行くことが一つ。あとは自分のあえて苦手なことをチャレンジする、とにかく経験を積ませることが大事なかなってのが出てきました。

ふるさと愛の方は地域の自然に触れるということだったり、ジオパークでの防災体験とか食育活動ですね、そういった企業見学ですね、そういった地域の教育資源って言った方がいいんですかね、教育資源を活用しながら、地域に触れ合うことによってふるさと愛を醸成していくことが必要。その活動の中でやっぱり自立・夢っていうので、何か自分に将来、地域に貢献できることがあるのではないかと、とかですねそういったことも生まれるってことでこの3番と4番は少し共通の部分があるのかなと。

そして5番と6番の体力・芸術・学力は、これ学校教育機関でやる部分と、あと地域でイベント性を持ってやるものが多分あると思うんですが、多分幼少期から例え

ば英語とかですね、そこら辺は今小さい頃から系統立ててカリキュラムを組めばできるのかなってことだったり、あとはさっき言ったように専門家の導入をしながら、アーティストの人を呼んだり、アートの活動を授業の中に取り入れたり、企業の体験学習をしたりということをしてしながら、学校でもいいですし町の何かイベントでもいいんで、経験を積みせながらやるってことが必要じゃないかなというところでした。

問題は多様性が一番難しいかなと思ってるんですけども、その中で高齢者とかですね、障害施設の訪問の交流をして、やっぱり自分の意見を通しつつ、他の意見を聞き入れる気持ちの醸成ということができる教育が必要かなっていうので出てきております。ただ、今度町の方でいろんな施設を活用するっていうところで、意外と外に出ることがなかなかなくてですね、交通網も例えば図書館があってもそこまで行く術がないとか、そういったことの整備が必要だったり、意外と外に出ないので、例えば食育とかは何か作ったものを持って帰ってもらうとかですね、そういった何かお土産をちょっともらえたりするイベントができればいいかなっていう話も出てきました。以上です。

## ○B グループ

B グループでは、コミュニケーションのところに関しては、例えば外国人との会話、リアルな体験の場を作っていくとか、あとは世代間の交流ですね。学年をまたがって遊ぶ、今特にその子どもたちの人数も少ないので非常に学年の違いの関わりというのはすごく作りやすいのかなと。あと英会話教室とか留学ですね、町内留学とかできないのかっていうお話から、例えば、不登校のお子さんに洞爺湖町に町内留学に来てもらうみたいなお話とか、多様性のところに関しては、例えば、外国人との交流とか。誰1人取り残さないっていうところでいくっていうところをちょっと意見も出ていて、そういったことを洞爺湖町で打ち出していきたいな、というところがあって、既にもうやられてるっていうところもあったんですが、例えば障害のあるお子さんとか、海外から来るっていうお子さんも今洞爺湖温泉小学校にも行ったりとかってあると思うんですけども、そういった子たちみんなで作っていく学校っていうことを、例えば他の自治体とかでいろいろ取り組んでいることや、あと不登校の子を取り残さないということをやっているっていう多様性もあると思うので、そういった先進事例と一緒に親・大人も子どもも学ぶ機会をつくるだとかですね、あと自立・夢なところだとアルバイトを許可する、学校によっていろんな考え方があるかもしれないけれど、むしろ社会経験ということでもどんどん許可していくっていうのはありな

んじゃないかとかですね。あとは子どもに権限を渡すですね。授業の一部とか帰りの会とかいろんなところで権限を渡すことによって主体性を高めていくとかですね。

あとはふるさと愛っていうところでいくと、今ある温泉のいろんな有効な活用の仕方とか、例えばその企業奨学金みたいなものを作って、それによって地元へ就職する、洞爺湖町に就職するとその返済を免除するとか、実際に高校・大学で関東に行ったりだとかしても、戻ってきた場合には返済免除する就学奨学金だとかある場合には、ふるさと愛に繋がるのではないかという意見などもありました。あとは、先ほどのお話もあったような郷土の物産を外で販売するとかっていうのもありましたし、体力・芸術のところでは工房で作品づくりとか、地域住民と一緒に作品を作るとか、あと芸術館を活用できないのかなっていうお話ありました。学力では未来塾だとかっていうところもありますし、優しさ・思いやりのところは、お年寄りのお手伝いをすることでちょっとお小遣いがもらえるような、そういった子どもと今いる高齢者との繋がり、そこにお小遣いを介在するような仕組みができないか、とかっていうお話がありました。あと災害のための勉強会というのもありました。

## ○A グループ

Aグループの方のワークショップの報告なんですけども、子どもたちと町の人たちとの関わり。コミュニケーションがやっぱり今もあるんですけどももっともっと深めていくことが大事だなってという観点で、いろんなコミュニケーションの多様性って感じで取り組みが出されていました。

子ども同士の関わりとしては、小学校間の繋がり。三つの小学校があると思うんですけど、小学校間の繋がりがもっとあってもいいんじゃないかと。高学年のお子さんがリーダーとなって、少し小さなお子さんにいろんなことを教えてあげたりとか、そういう関わりもあってもいいんじゃないか。子どもたち同士の関わりがまずあって、それから地域の人たちと、関わりがもっとあった方がいいんじゃないか。基本は挨拶だっていうこともあるし、地域の方と触れ合う時間は、やっぱりご家庭のお子さんが学校時代を過ぎてしまうと、なかなか学校との関わりが少なくなっちゃいますね。そうすると、なかなか見知らぬ子どもたちに注意しても変に思われちゃうとかね、そういうことが今の世の中ありますので、そうすると、もうちょっと子どもたちと自然に触れ合うような機会が、もっといっぱいあった方がいいんじゃないかなということですね。



あと、いろんなハード面の回答ですけど、子どもたちが地域のお祭りを子どもたち主導で考えて、そこに地域の人たちも入っていくような形とか、文化センターでいろんな学校の子どもたちが集まって発表したりとか、それから子どもたち同士が行き来し合うためにバスを運行するとか、そんなことも交流するためには必要なんじゃないかなと。中学校の学校祭に地元のお店の人が出店したりとか、そういうような考え方もあるんじゃないかなということです。

あと多様性の部分では、福祉施設などの人との交流とか、高齢者の方との交流などもあっていいし、外国人との交流とか留学生との交流があってもいいんじゃないかっていう話です。コミュニケーションの多様性に関わる取り組みが、ソフト面とハード面と切り離せないような形になりました。

あとは3と4番ですけど、子どもたちが成長するためにはいろんな体験が必要だと。もちろん洞爺湖町の自然環境を生かした体験ももっともっと必要ですけど、農業の体験とか、そういう体験やもっと別な体験も必要なんじゃないかと。修学旅行でも東北じゃなくて東京まで行けるようにした方がいいんじゃないかと、そのような意見もありました。あと、噴火の体験を子どもたちに伝えたり、災害時の対応とか、そんなことを学ぶことがもっとあっていいんじゃないかなというようにもあったり、これは体力・芸術ですけど、地域の文化をもっと幅広く学ぶ機会があった方がいいんじゃないかなっていうのはありましたね。

あと共通するんですけど、いろんな取り組み方法として、学校教育の中でなかなか難しいんですけど、民間企業の方ともっとタイアップした、民間企業の方にいろいろお金を出してもらったりとか、ICTを使って様々な方と交流するような機会、あるいは有名な講師の方に来ていただいて学力向上のために学ぶ機会を作るとか、そういうご意見がありました。大きく、関わりの面と、ふるさと愛にかかる意見が今日はグループで多く出てきたかなと思います。

なかなか活動とハード面の重なるの切り分けが難しかったです。本当は具体的な活動をまず出してもらって、それに必要なハードは何かなって話していこうと思ったんですけど一緒になって出てきちゃったっていう感じですね。

以上です。

○山本教育指導参与

ありがとうございます。ソフト面とハード面ということで出していただいて、それを具体的にどのような教育活動が展開できるのかなということで考えていく際に、ちょっと事務局の方でもハードと教育活動をどう繋げていくのかっていうところが非常に難しいなと思っておりました。教育活動を出した後のハードなのか、ハードを出して教育活動なのかっていうところで、これを一緒に捉えながら、ソフト・ハード、そして学びの環境をどう作っていけるのかっていうようなところがある中で、どう落としていけるのかなというところで考えておりました。短い時間の中で本当に貴重なアイディアを出していただいてありがとうございます。

以上でワークショップの方を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

#### ○鈴木会長

はいそれじゃあどうもご苦労様でした。

やっぱりワークをやるとあっという間に時間が過ぎてしまって、もっと時間が欲しいとか、もう少し内容をいろいろと議論したかったっていうような話があったと思うんですけども、時間が限られておりますのでより具体的な話になってきたのかなというふうに思います。それでは次第の4、その他ということで、まずその事務局の方から情報提供よろしく願いいたします。

#### ○細江教育推進課長

はいそれでは私の方から次回の会議につきましてのご案内をさせていただきます。

次回の会議予定は9月下旬頃を予定しております。日程調整をいたしまして、来週にはご連絡をさせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。今回は第2回目の時に各教育施設の視察をしていただいていることと思います。その視察をいただいた教育施設の今後のあり方についてご意見をいただき、方向性について具体化していきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。また、通知のときにもご案内させていただきますが、第2回の時にお配りした資料を次の時にお持ちいただきたいと思いますので、もしない方がいらっしゃいましたらこちらの方で当日準備はさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

ありがとうございました。

それでは最後に、私のまとめというか私の感想ですね。ちょっと1枚のプレゼン画面に収めたんですけど、具体的な話は各グループでいろいろ出されたと思います。皆さん付箋に書いて共有しながらも、さらに付箋に書きながらということで、やっぱりそもそもこうだよなっていう議論があったりとか、校長先生の立場から今の子どもたちはとか、いろいろお話が出てたっていうところ、その部分の具体は多分これから今回事務局の方で示したハード面の中の項目を見ると、具体的な内容が入ってきてますので、このハード面をふるいにかけてながら、洞爺湖の子どもたちをこれからどうしていこうかっていうあたりが、この審議会の中である程度方向性が見えてきて、これを答申に入れ込む形になるのかなと思います。

それで今日出された、あの細かいところは置いて、私なりに受けとめたものをキーワードでちょっとまとめたというか、思いついたものをベタベタと打ったんですね、こうじゃないぞという議論もあると思うんですけど、やっぱり今議論しているのは洞爺湖町の子どもたちのためにどうするか、これから何十年、そういう先に洞爺湖町の子どもたちのためにどうあるべきかっていうことを諮問で受けたので、それを答申として落とし込むために皆さん方がいろいろ議論されているという形だと思いますので、一応学びということを中心に置いて真ん中に洞爺湖町の子どもたちを置きながら、まずは学びの場づくりということで具体的なものがいろいろ出てきたと思います。これはもうこれこれっていうよりは、うちのグループでこういうものが出来たよなとか、ソフト面を見るとこれそうだよな、だとかですね。逆にハード面でも、実際に場づくりの中でこういう場が必要だとかっていうのも出てきていますので、そのあたりをやっぱり入れ込むことっていうのは大事だなっていうのが一つ。

それから学びの繋がりということで、やっぱりこう繋がっていかなくちゃいけないですから、地域と繋がるとか、人と繋がるとか産業と繋がるとかっていう、その学びの繋がりっていうことも大事になってくるでしょうし、学びのイメージづくりということで、実際子どもたちが具体的にイメージづくりするには、体験だとか、そういうものを具体的に必要だっていう話も出ていました。ですから、やはりそのイメージづくりっていうのも大事だし、逆にそもそも今の子どもたちはこうだとか、今の子どもたちはなかなかこういうことになるよなとか、コミュニケーションであるとか挨拶であ

るとか、そういう基礎づくりといいますか、学びの基礎っていうのはまずどうあるべきか。洞爺湖町の子どもたちは1人1人こういう基礎をまず身につけてほしいとかですね、あと学びの発信は、この得たものをどう発信していくのか。ですからICTを使うとか、逆に外に出て、洞爺湖町の良さをどんどん発信していくっていうのも一つですし、そして、逆に子どもたちがこの洞爺湖町で育って、学びの良さを実感して、また大きくなって外に出て戻ってくるとか、洞爺湖町のためにというような、こんなワードを、六つほどちょっと用意したんですけども、その他にもいっぱいあると思います。これが多分これから次回以降のハード面とどう繋がるかとか、また、第2回に視察に行った施設ですね。それを有効活用するにはどうしたらいいだろうかとか、いや、これはぜひ予算をかけて何とかしてほしいっていうのも新たなものとして生まれてくると思うので、多分その下の方に学びを支援する環境づくりの効果的な方策の提案ということで、これを具体的に答申の中に審議会として入れていくことが一つあってもいいのかなっていうことをちょっとイメージでまとめてみました。

ぜひ次回はそんなことを受けながら具体的な内容を、さらにハードをどうしていこうかというあたりも、それぞれの立場でご議論いただければ、より内容の濃い答申になってくるのかなというふうに思いですので、そんなことを私なりに思ってまとめてみました。

それでは以上で第5回の審議会の方を終了いたしたいと思います。